

社会福祉法人山形県社会福祉事業団機関紙

がさぐるま

ひと 未来 輝いて

2014 March
NO. 92



マスコットキャラクター

アビリンピック2016山形大会について

山形県社会福祉事業団将来構想の全体像について

平成25年度健康運動セミナーについて

平成25年度施設実践報告会について

障がい者虐待防止・権利擁護研修について

シリーズ アビリンピック2016山形大会

山形県は、平成 28 年度の「青年技能者技能競技大会（技能五輪全国大会）及び全国障害者技能競技大会（愛称：アビリンピック）」の開催県に立候補し、平成 24 年 12 月に開催が決定しました。

山形県では、3 年後の開催に向け、「やまがた技能五輪・アビリンピック 2016 推進協議会（会長 山形県知事）」を設立し、山形県社会福祉事業団は、競技に出場する選手の発掘や選手の育成・強化を行う「アビリンピック選手発掘・育成推進事業」を同推進協議会から受託することとなり、今年度から、「アビリンピック選手育成推進員」を配置し、その業務に当たっています。

アビリンピックとは？

アビリンピックは、満年齢で 15 歳以上の障がいのある方々が参加対象となり、日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々に障がいのある方々に対する理解と認識を深めてもらい、雇用の促進を図ることを目的とし、地方大会と全国大会が開催されています。

全国大会の開催地については、昭和 47 年の第 1 回大会から平成 13 年の第 25 回大会までは千葉県で開催してきましたが、第 26 回大会以降は原則として、「技能五輪全国大会」と同時期に開催し、各地方都市で開催することになりました。

なお、愛称のアビリンピック（Abilympics）とは、アビリティ（Ability：能力）とオリンピック（Olympics）を合わせたものです。

山形大会の基本方針

東日本大震災後、東北では初めての全国大会の開催となることから、山形県は、「輝け！ものづくり東北の未来」の大会スローガンを掲げ、1「東北のものづくりの復興」、2「技能の向上」、3「技能の尊重と理解促進」4「技能の継承」、5「障がい者の雇用促進を目指して」、6「交流と相互理解の促進」、7「コンパクトな大会エリア」、8「情報発信」の 8 つの基本方針を策定しています。アビリンピックにおいては、障がい者の職業能力の向上を目指すとともに、「社会参加と雇用促進」が大きなテーマとなるため、障がい者の理解と関心を高めてもらえるような事業を展開していくことを掲げています。

アビリンピック山形大会における山形県社会福祉事業団の役割（次ページ参照）

(1) 選手の発掘

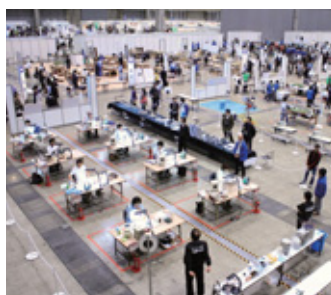
県内の障がい者福祉施設、特別支援学校、企業等を巡回・訪問して、能力のある障がい者を探し出すこと。

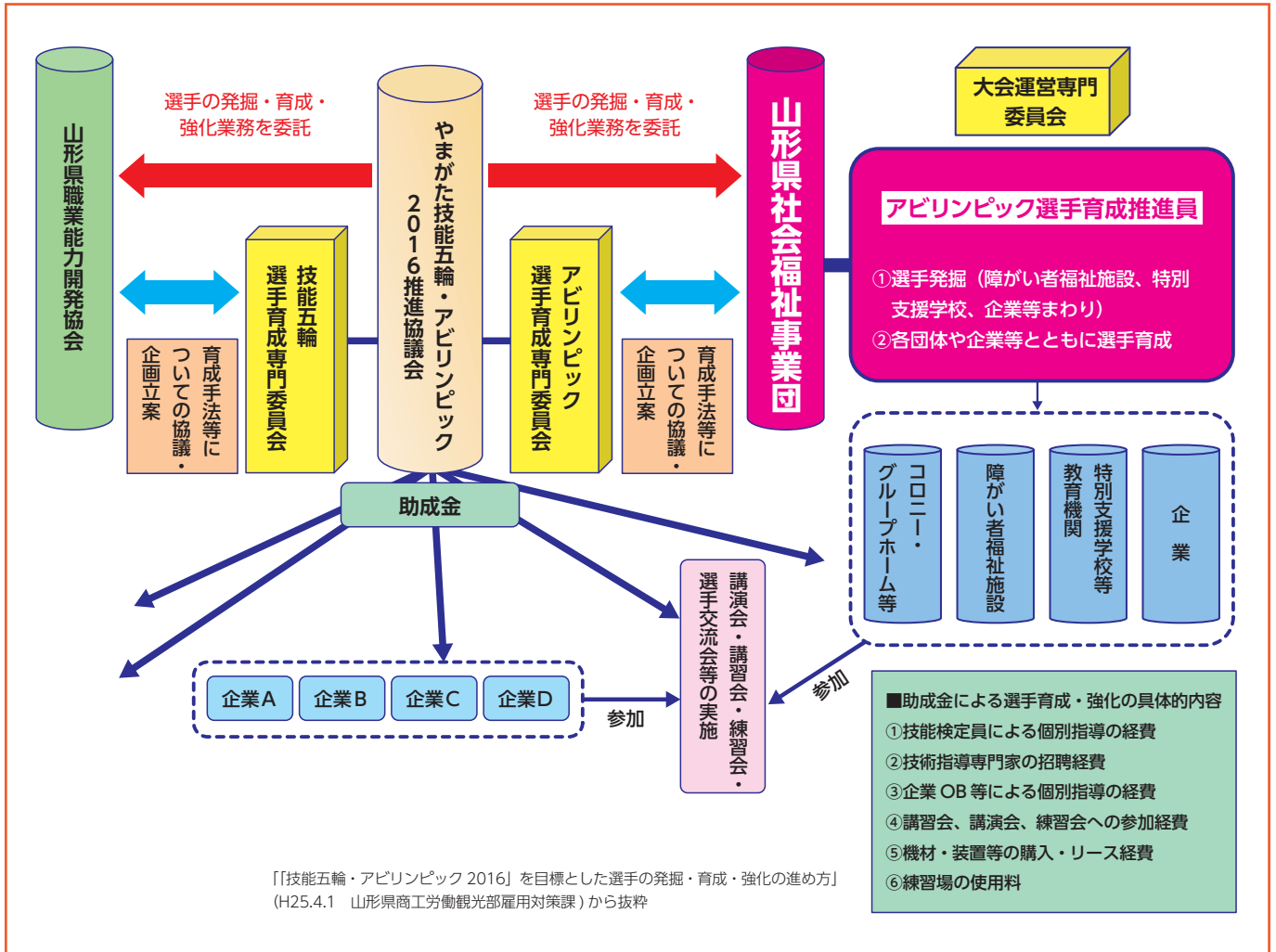
(2) 選手の育成・強化

企画提案や情報提供を行うなど、具体的な選手の育成を行う障がい者福祉施設、特別支援学校、企業等と、やまがた技能五輪・アビリンピック 2016 推進協議会との間の調整を行う。

アビリンピック山形大会では、最近の大会（平成 24 年度）の実施職種・種目をベースに、24 種目の競技を予定しています。過去出場のなかった種目が多くあるため、選手の発掘については、障がい者を雇用している事業者や福祉関係はもちろんのこと、教育機関や企業団体に大会の趣旨を理解してもらいながら、事業団の持つネットワークを駆使し、多くの選手を発掘・育成していきたいと考えています。

アビリンピックに興味のある利用者の方がいる場合は、お気軽に事務局までご連絡ください。

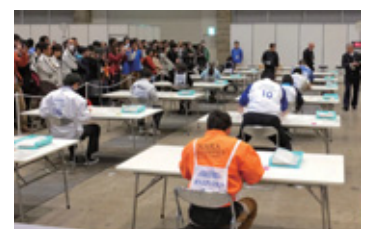




【アビリンピック2016 山形大会 予定24種目】 (大会は平成28年10月～11月までの間の3日間で開催されます)

グループ	競技種目	参加対象者
機械・金属系 (1種目)	機械 CAD	<p>青文字： 身体障がい者 知的障がい者 精神障がい者 対象</p> <p>緑文字： 身体障がい者 (視覚障がい者に限る) 対象</p> <p>赤文字： 知的障がい者 対象</p>
建築・工芸系 (5種目)	家具、建築 CAD、義肢、歯科技工、木工	
電子技術系 (4種目)	電子機器組立、電子回路接続、パソコン組立、 コンピュータープログラミング	
情報技術系 (7種目)	DTP、パソコン操作、ワード・プロセッサ、表計算 データベース、ホームページ、パソコンデータ入力	
サービス・ファッション系 (7種目)	洋裁、縫製、フラワーアレンジメント、製品パッキング 喫茶サービス、ビルクリーニング、オフィスアシスタント	

競技種目の詳細については、
「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構」のホームページ
(http://www.jeed.or.jp/activity/abilympics/abilympic_top.html) を参照ください。
☆競技種目は、予定ですので今後変更になる可能性があります。



将来構想の全体像について

平成24年10月に設置された「山形県社会福祉事業団将来構想検討会」は、平成25年3月に「基本骨子」、平成25年8月に「中間まとめ」を行い、平成25年9月末に「将来構想検討会最終報告書」を策定しました。
今回の「かざぐるま」では、事業団が目指す将来構想の全体像を抜粋して紹介したいと思います。

I 将来構想の策定にあたって

1 策定の趣旨

持続的で安定した法人経営を確立するためには、中長期的視野に立った事業展開、組織運営及び財務基盤の確立等について、**一定の方向性**を定めておく必要があることから策定するものです。
構想の期間としては、**概ね5年～10年のスパン**を想定しています。

2 構想の基本的な考え方

(1)施設運営・事業展開

事業団の特性（**先駆性、専門性、広域性及び事業・人材の多様性**）を明確に打ち出しながら事業展開を目指す必要があります。

(2)自律的経営への取り組み

①財務・経営等

事業団の持続的で安定した経営が可能となるよう財務基盤を確立するとともに、**自律的な経営体質**への転換を図る必要があります。

②組織・給与等

自ら考え、自ら行動する自律的な経営を目指し、**組織マネジメントの強化と働きがいのある職場づくり**を推進する必要があります。

③人材の確保・育成

質の高いサービスを提供できるよう**人材を安定的に確保**するとともに、専門性を兼ね備えた**人材の育成**を図る必要があります。



II 今後の具体的な取り組みと事業展開の方向性

1 高齢化、重度化等への対応

利用者の**高齢化、重度化及び支援困難者の増加**など、変化するニーズへの対応に向けて、**体制整備を図る**必要があります。

2 重度者の地域移行の推進

グループホームの運営実績をもとに、特に、**重度者（知的障がい者）、そして身体障がい者の地域移行**について、さらに推進を図る必要があります。

3 看護・リハビリ体制の強化

利用者の**嚥下障害や身体機能の低下**に対応するため、リハビリ機能や社会復帰に向けた支援機能の強化を図る必要があります。

4 医療的ニーズへの対応

地域の**難病者や重症心身障がい者等の受け入れの可能性**や経管栄養やたん吸引、看護強化型介護や看取り等について検討する必要があります。

5 食事サービスの充実

施設の食事サービスについては、**家庭的で顔の見える自前調理**の利点を生かしつつ、効率的なサービスの提供に努める必要があります。

6 魅力あるメニューの提供

乗馬療法、音楽療法や健康運動の提供、作業場、農地等を活用した**アクティビティや農・園芸メニュー**等の開発にも取り組む必要があります。

7 研修機能等の強化

各種委託研修等については、県や市町村との連携をとりながら、**地域の福祉人材の育成**に向けて、さらに取り組みを進める必要があります。

8 施設老朽化への対応

県立障がい者施設等については、**順次改築**が行われるよう県に要望するとともに、特別養護老人ホーム（自主経営）の改築を検討する必要があります。

9 地域サポートシステムの構築

施設とサポートセンターが有する機能の連携強化を図りながら、地域における新たなサポートシステムの構築に向けて取り組む必要があります。



Ⅲ 施設機能及び今後の事業展開

1 県立障がい者施設等

種別及び施設名 ()内は主たる対象者	施設整備等	目指すべき施設機能
障害者支援施設 鶴峰園(身体障がい者)・慈丘園(知的障がい者)	最優先課題として 要望	障がい者の拠点的・多機能施設として、高齢・重度障がい者、支援困難者、重症心身障がい者及び難病者等にも対応できる施設
総合コロー 希望が丘(知的障がい者)	要望	高齢・重度障がい者、支援困難者、重症心身障がい者及び難病者等にも対応できる施設として、機能を再編
障害者支援施設 梓園(身体障がい者)	要望	難病者や重症心身障がい者等の受け入れ(短期入所等)の検討とリハビリ機能、医療的ケア等の強化
障害者支援施設 吹浦荘(知的障がい者)		児童施設からの受け入れを含め、自閉症や行動障がいなど支援困難者等への対応を強化
多機能型事業所 ワークショップ明星園(身体障がい者・知的障がい者)		立地条件を活かし、高次脳機能障がい等の中途障がい者などに対するリハビリ機能を強化
救護施設 泉荘・みやま荘	バリアフリー化を 要望	触法障がい者及びアルコール・薬物依存者等の支援困難ケースやショートステイ等在宅支援への対応を強化
福祉休養ホーム 寿海荘	設備の改修を 要望	障がい者及び福祉関係者等が低廉な料金で利用できる県内唯一の温泉保養施設として、利用率向上を目指す

2 自主経営施設

種別及び施設名 ()内は主たる対象者	施設整備等	目指すべき施設機能
特別養護老人ホーム 松濤荘・寿泉荘 福寿荘・大寿荘	改修や改築の検討 (松濤荘を除く)	施設老朽化への対応、看取りケアや医療的ニーズへの対応、高齢障がい者の受け入れやリハビリ機能の充実・強化
サポートセンター あおぞら・ういんず らいと・ゆあーず おきたま・あずさ	グループホームの 整備検討	地域移行の推進、障がい福祉分野(難病等を含む。)における地域のワンストップ相談窓口、さらなる拠点化と専門機能の強化

Ⅳ 自律的経営への取り組み

1 財務・経営等

収入の確保と経費削減により、**適正な剰余金を確保**するとともに、体質の強化を図る必要があります。また、各施設の経営分析を行い、特養等の施設老朽化への対応や財務基盤の確立を図るとともに、事業団の活動について、**積極的に広報**していく必要があります。

2 組織・給与等

援助部門及び事務部門における**職員の適正配置**、施設の営繕業務等への対応について検討するとともに、給与等については、将来展望を見据えながら、**持続的で安定した給与制度**となるよう検討する必要があります。

3 人材の確保・育成

組織力の強化と人材の確保・育成を図るため、**定期的な職員採用**を継続するとともに、社会情勢に対応した人事制度となるよう検討する必要があります。

また、**OB職員の活用**や専門的知識・経験を持った職員の嘱託化等、その**職務・職責の明確化**や**資格取得の推進等**を図る必要があります。



【未来へ向かって】

「将来構想検討会最終報告書」の最後には、このように記されています。

この報告書は、事業団が**今後目指すべき将来像や方向性について主体的に示したものである**とともに、具体的な目標やその達成時期等を盛り込んだ**「次の経営計画」のベースともなるもの**であり、従って、今後の指定管理の動向も含め、**事業団の将来を大きく左右する重要なもの**であり、「**今こそ事業団は、これまでの歩みの中で培ってきた先駆性、専門性、広域性という総合力を活かしながら、事業団を取り巻く環境がいかに変わろうとも、自らの手で未来を切り開いていくことが重要である。**」

平成 28 年度からの次期経営計画の策定については、最終報告書をベースに創立 50 周年を迎える平成 26 年の夏頃から検討を開始する予定となっています。

平成25年度健康運動セミナー

開催日：平成 25 年 12 月 18 日(水)

平成22年度の日本人の平均寿命は、82.92歳でしたが、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間の「健康寿命」は、72.02歳と、平均寿命に比べ実に10歳程度の開きがあります。健康寿命を縮める要因の一つに、「ロコモティブシンドローム（運動器症候群／略称ロコモ）」が挙げられます。ロコモとは、運動器である骨、筋肉、関節といった運動器の衰えまたは、衰え始めている状態のことを指し、介護が必要になった原因の第1位（平成22年度国民生活基礎調査）となっており、ロコモの予防は、健康増進法に基づき策定された、「健康日本21（第二次）」において、重要な位置づけとして明記されています。

事業団では、施設等を利用する方々が、いつまでも元気に日々の生活を送っていただけるように、法人をあげて健康づくり実践に取り組んでいます。

実践の中心になっている当法人の「リハビリテーション委員会・健康運動部会」では、健康寿命の延伸を図るべく、早くからロコモ予防に取り組んでいましたが、更なる全体化を目指す為に、同部会主催事業の「健康運動セミナー」では、ロコモをテーマに取り上げ開催いたしました。

セミナーは毎年実施していますが、今年度は、事業団の施設だけではなく、地域への啓蒙活動や推進・ネットワーク作りも目的とし、外部の関係機関にも参加を募ったところ、県内の行政や社会福祉機関などから20名の申込があり、冬期の開催にも関わらず、内部参加者と合せ64名の参加がありました。

セミナーの講師には、全国をまたにかけてロコモ予防の啓発に取り組まれている、仙台市の佐々木整形外科麻酔科クリニック院長の佐々木信之先生と東北福祉大学特任准教授で健康運動指導士の鈴木玲子先生をお招きしました。

佐々木先生からは、生活上の運動器の果たす役割や運動器の低下等により引き起こされる様々な障害等について丁寧な講義をいただき、鈴木先生の実技では、実際に参加者からロコモの要因となる運動器の検査体験などをまじえ、運動の効果を説明していただきながら、両先生が考案したユニークな「ロコモ体操」を音楽に合わせて参加者全員で覚えました。

参加者からは、とても楽しく運動できたなどの感想が多数寄せられました。

健康づくりを実践するにあたり、運動の楽しさをしっかり伝えることは、施設等を利用する方の健康運動への取り組みうえでの自発性や継続性を育む大切な要因であることを改めて感じる事ができたセミナーとなりました。



(♪ロコモかしこもさびないで)



(佐々木先生・鈴木先生を囲んでの記念撮影)



平成25年度施設実践報告会について ～研究推進事業 実践研究・福祉QCの取り組み～

去る2月21日（金）、平成25年度施設実践報告会が行われました。研究推進事業として毎年開催するこの報告会の目的は、「サービスの向上を目指して取り組んできた日頃からの実践について、報告会を通して改めて分析・評価することにより、専門性の継承と職場の活性化を推進する」ことにあります。今年度は15施設から応募があり、そのうち6施設（以下参照）が発表施設として選ばれました。どの発表も事業団の先駆性・専門性を追求する内容で、聴講者からは発表内容を参考にするべく活発に質問や意見交換が出されていました。



(希望が丘まつのみ寮の発表)

最優秀賞は、聴講者からの投票によって、多機能型事業所ワークショップ明星園の発表「衝突なっしーでおもてなし」が選ばれました。報告内容はヒヤリ・ハットについてでしたが、助言者からは「職員・利用者が皆で取り組んだことは画期的」、「ヒヤリ・ハットを視覚化（数値化）することで情報を共有化し、活かしている」、「利用者も共に取り組んだことで、利用者とコミュニケーションをとることや利用者の尊厳を守ることもつながっていったのではないか」などの言葉が聞かれました。聴講者からも「今後、私たちの施設でも参考にさせていただきたい」などの声が多数あり、ヒヤリ・ハット、延いてはリスクマネジメントに対して一石を投じるものであったことがうかがえました。

この度の報告会をとおして学んだことが、事業団の先駆性・専門性・広域性として発揮されることを期待しています。

なお、この報告会の内容は事業団ホームページに掲載する予定です。（<http://www.yjsj.or.jp/>）

【平成25年度施設実践報告会発表施設一覧】

施設名	題名
特別養護老人ホーム 大寿荘	利用者の喜ぶ笑顔がみたい ～生きがいを見出すには～
多機能型事業所 ワークショップ明星園	衝突なっしーでおもてなし
障害者支援施設 希望が丘まつのみ寮	運動はいつするの？今でしょ!!
救護施設 泉荘	「スチコン」で「好き献」
障害者支援施設 吹浦荘	地産地消をかねての食育 ～食育を利用者と共に楽しみながら～
特別養護老人ホーム 松濤荘	自然排便を促す取り組み



(皆、全身を耳にして聴き入っていました)



(発表後の記念撮影)

障がい者虐待防止・権利擁護研修

「山形県障がい者虐待防止・権利擁護研修」が、平成25年11月7日(木)から8日(金)まで2日間の日程で行われました。

事業団では、障害者虐待防止法（障害者の養護者に対する支援等に関する法律）が施行される前からこの研修を受託しており、今回は施行後初めての研修となりました。

研修には、県内の障がい者福祉施設の管理者やサービス管理責任者、各市町村障がい福祉担当者や相談支援事業所の相談支援専門員等が出席しました。県障がい福祉課からの行政説明のあと、東洋大学高山直樹教授による講義、そして「障がい者施設等における障がい者虐待防止の対応コース（管理者・従事者コース）」、「権利擁護センター・虐待防止センター担当職員等研修コース（相談窓口コース）」それぞれの分野に分かれて講義・演習を行い、最後は施設や行政職員が一緒になって、虐待防止に向けた情報交換会を実施しました。

管理者・従事者においては、法律の基礎知識や権利擁護に関する意識啓発、虐待防止の体制づくりを、相談窓口では、通報を受けての事実確認や対応方法、当事者・養護者支援等について知識を深め、担当職員の専門性強化に繋がる内容の研修となりました。



掛け流しの温泉でゆったりのおんびり疲れを癒す

手作り料理にきっと満足!!

寿海荘

1泊2食付

60歳以上の方・母子(寡婦)・
身体障がい者の方

5,350円 (税込) ※平成26年4月1日より

【一般の方6,280円(税込)】

◎料金の詳細についてはお気軽にお尋ね下さい。

◎送迎サービスは庄内地区宿泊7名様からご相談に応じます。

さまざまな楽しいイベントも企画しておりますので、
お気軽にお問い合わせください。

ホームページでも情報を発信しております。

寿海荘ホームページアドレス <http://www.jyukaiso.jp/>

ご意見・苦情はメール info@jyukaiso.jpまでお願いいたします。



山形県福祉休養ホーム
あつみ温泉

寿海荘

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里88-1
お問い合わせ(ご予約) **0235-43-4173**